

ユドモ

の

ボク

子供の頃

私は自分のコトを

ボクと言っていた

ボクは

ジジジ(おじいちゃん)

バババ(おばあちゃん)

とくらししていた



カーキヤンと

トーチヤンは

とおくで

リコンゲイソウキヤウ

だった

ジジジとバババは

カーキヤンの

トーチヤン、カーキヤンで





ボクは

カーキヤンとは

トキドキ

あっていた

でも

トーチヤンとは

いちども

あったことはなかった



だけど

ジツジツと

バツバツは

とても

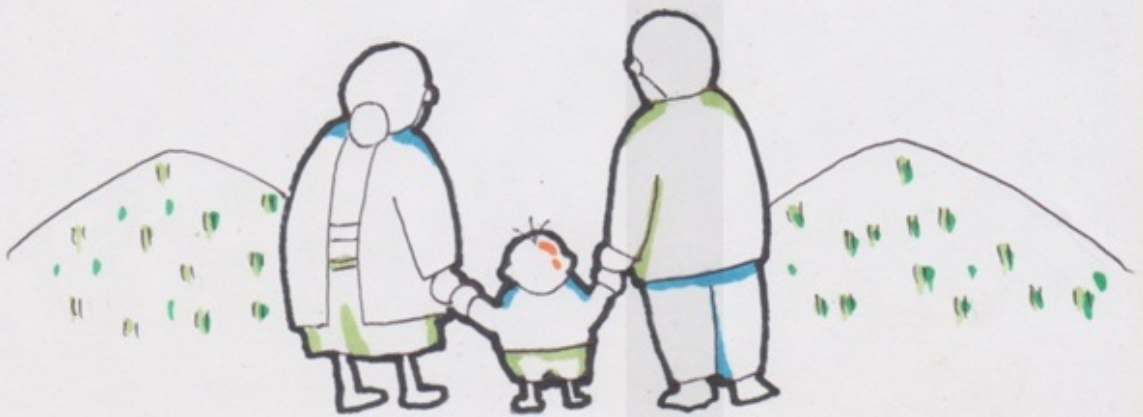
やさしくて

カーキヤンと

トーチヤンが

いなくても

シマワセだった



ジツジツは

キヌメンテツシヨクインで

セングはガッラの

ヨムインだった



よく

ガッラの

キヌシヨクで

あまった



ギニューニューをもらっていた

それを

バツバツが

ホツトシクマ

してくわて

それが

ボクの

オヤツだった

とてもおいしかった





バツバンは

タンカをよむのが

シユミンで



コーロクのウラを

イトがわりにして

ウタをかきとめていた

ジツジもバツバンも

ハッぱい

ハナシをしてくれた

ジツジは

ゴエモンブロを

わかしながら

マンシユウで

あそんだ

オモイデをきかせてくれた



バツバツは

ズツズツが

バンビヤクして

よっぱらうと



ムカシは

ズツズツのキエグセと

ヨアソヒで

クロウサセられたと

グチッては



ズツズツ

「オイおれが

「ルかった」

と、あやまらせていた



ヨルは

カワのズツになつて

ねた





エロコトになると

ボクが

ぬつくまで

マンジュウでの

ヨクリユウと

ヒキマゲの

ハナシをしてくれた



ハイセンして

ピンボーになって

セイカツがむちゃくちゃ

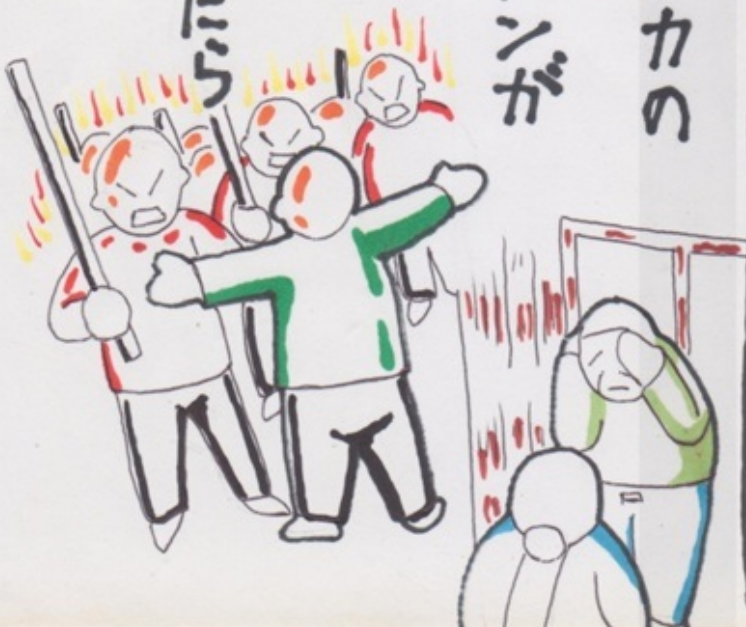
ジツジのブカの

マンジュウジンが

たすけて

くれたかったら

ころさぬていたこと



ジュンジュンサベツは

よくなー

センサーなど

りけなー

となんどもきがさされた



ホイクエント

はいると

カーキヤンとの



セイカツがはじまった

カーキヤンと

トーチヤンが

リコンして

ミンケンが

カーキヤンのきつ

なつたのび



カーキヤンとのんふし

イヤだった





ジツジツとバツバンと

くらしてりたころ

たまにあうカーキヤンは

やさしかったけど



にっしやてんす

カーキヤンは

ジツケのオニ

だったのだ



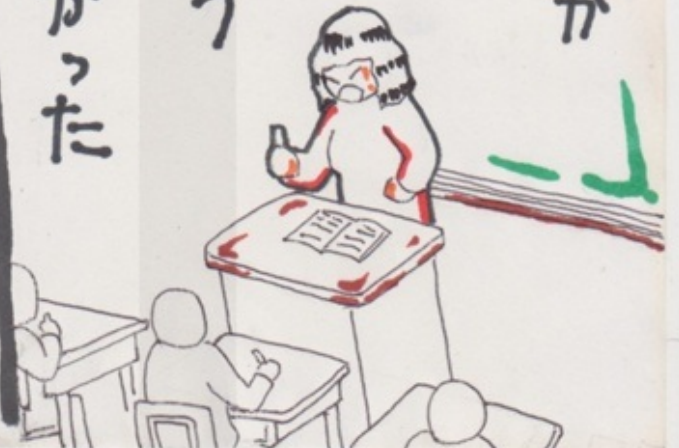
カーキヤンのマントが

ショーガッコウの

センセイ

だったからだろう

ジツケはきびしかった



あやまるときは

ドゴゴ

ドゲザガができなると

ゴハンをたべさせて

もらえなかつた



ボクが

ショーガツコウに

はいるとき

カーキヤンは入った



「これからほ

カーキヤンがきなく

オカアサンと

いいなさい」



それをきいていた

バツバンは入った

「なんば

カツコフけよるか?!

カーキヤンで

よかろうが」



バツバンに

カーキヤンは

いった





カーキヤン

くちださんで

シツケ

なんじやか!!!



その日から

カーキヤンは

オカアサンに

なって



私の子供時代は

終わった

ような気がする



それから

理不尽とか

不安とか

そんなモノに

さりなまれる

人生がスタートした



ゴドモ  
の  
ボク

— 糸巻わり —